

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○学び合い、認め合い、共に高め合う児童の育成
 ○主体的な学びで確かな学力につなげる授業改善の在り方

津乃峰小学校
 「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長 外山真寿美 教頭 森北和典 教務主任 西東秀城 研修主任 片山トシエ 得野 真琴 特別支援コーディネーター 笹田由美 樋谷まどか 人権教育主事 広瀬直美
---------	---

校長

外山 真寿美

【小中連携または中高連携における共通の取組】

児童・生徒の主体的な学びを展開するため、MetaMoji ClassRoom を積極的に活用した授業実践し、互いに参考となる実践を共有する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 自分の思いや考えを、抵抗なく文章にすることができる。 ● 語彙が少なく、文章や問題を読み取る力が低い。	・ 落ち着いて学校生活をおくり、学習のきまりを守って集中して課題に取り組むことができる。 ・ 読書を楽しみ、要点を押さえて文章や問題を読み取ることができる。	・ 全校体制で「津乃峰小授業のルール」の意識付けを図るとともに、教師間で学校のきまりの共通理解を図り、子供への対応を統一する。 ・ 子供の実態に応じた読書記録カードに改善したり、読書賞の規定を見直したりすることで、子供の読書意欲を高める。	・ 授業中、問題の把握や整理のために、アンダーラインや書き込みを入れる習慣をつけるようにする。 ・ 学級文庫を入れ替えたり、授業に関連する本を並べたりすることで、様々なジャンルの本を読める環境を整える。	・ 教師間でルールの共通理解を図ることはできたが、項目によって(姿勢の保持など)十分に達成できていないものもあった。 ・ アンダーラインや書き込みを入れる習慣は身に付いてきた。 ・ 図書担当や委員会の様々な取り組みにより、読書意欲が高まった。	読む時間を確保するとともに、要点を捉えた読み取りのためにアンダーラインや書き込みの入れ方のポイントを押さえた指導をする。 語彙を増やすための活動を日常的に行ったり、環境を整えたりする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 教師や友達の話をしっかりと聞くことができる。 ● 自分の考えを発表することが苦手である。	・ 自分の思いや意見を、自信をもって相手に伝えることができる。 ・ 互いの意見を出し合い、多様な考えを認め合うことで、みんなでよりよいものを生み出そうとすることができる。	・ 学級内だけでなく、全校朝会やふれあい班、オンライン形式等、様々な発表の機会を設ける。 ・ タブレットやホワイトボードなどを効果的に使用し、互いの意見を共有したり、練り上げたりする場面を増やす。	・ 安心して発言できるよう、相槌や適度なつぶやきがある聞き方ができるよう指導する。 ・ 先進的な活用ができている学級から学び、タブレット等を活用し効果を高める。	・ コロナ禍で思うように発表の機会を設けられなかったが、一つ一つの機会を活かして、しっかりと発表できる子が増えてきた。また、反応しながら話を聞いてもらえることで、安心して発言できる子も増えた。 ・ タブレットやホワイトボードの活用により、視覚的にサポートされ、自分の意見をまとめたり、グループで互いの意見を共有して練り上げたりすることが容易になった。 ・ 学級によってタブレットの活用には差があった。活用の仕方について意見交換できる機会をあまりもてなかった。	タブレットの技能習得を高めるとともに、コロナ禍においても話し合いの場を工夫して設け、思考力・判断力・表現力を高める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 与えられた課題に対し、素直に取り組むことができる。 ● 学習内容や活動状況に合わせて、見通しをもって、主体的に取り組むことが難しい。	・ 主体性をもって、各教科の学習や家庭学習に取り組むことができる。 ・ 自ら疑問や課題をもち、解決しようとする態度が身に付いている。	・ 「家庭学習の手引き」、「自主学習の手引き」の指導を丁寧に行い、学習内容の定着を図るとともに、自発的な学習意欲を伸ばす。 ・ 教師が細かな指示を与えすぎることなく、子供が自ら考えたり行動したりする場面を増やす。	・ 学習後のふりかえりの機会を大切にし、学習したことを発展的に追究したり、生活に活かしたりできるようにする。	・ 丁寧な指導は行ったが、自主学習の内容は工夫されたものと、そうでないものの差が見られた。自発的な学習も個人差があった。 ・ 学年によって差はあるが、子供自ら考え行動する場面を積極的に設けることができた。 ・ 教科や学習内容によってふりかえりの仕方に軽重があったが、ふりかえることで学習内容が明確になり、生活に活かそうとする児童が増えた。	学びから、楽しさや感動など心が揺さぶられる思いを子供に与え、主体性をもって学ぶ子供を育てる。 また、課題解決のための見通しをもつ力の育成も、さらに進めていく。

令和3年度 学力向上ロードマップ

